



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/10 (月)				スポーツの日			IMF・世銀：年次総会（16日まで） 米：ブレイナードFRB副議長講演
10/11 (火)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	CP等買入 ▲ 200 社債等買入 ▲ 100 補充供給 + 15,000		日：貿易収支（8月） 景気ウォッチャー調査（9月） IMF：世界経済見通し 英：中銀総裁、講演
10/12 (水)	+ 1,000	+ 3,000	+ 4,000		共通担保資金供給 + 11,250		日：コア機械受注（8月） 米：FOMC議事要旨（9月20、21日両日開催分） PPI最終需要（9月） 欧：鉱工業生産（8月）
10/13 (木)	+ 2,000	▲ 12,000	▲ 10,000	国債発行償還（30年） 源泉税揚げ			日：国内企業物価指数（9月） 米：CPI（9月）
10/14 (金)	+ 1,000	+ 83,000	+ 84,000	年金定時払い 社会保障費の支払い			日：マネーストック（9月） 米：小売売上高（9月）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、492兆700億円から始まった。その後、4日には税保険揚げ、5日には10年利付国債の発行もあり487兆9,800億円まで減少、その後は財政券等要因により6日には485兆9,500億円まで減少し週末となる7日は495兆4,600億円を越えた。

無担保コールON物の同加重平均金利は週初、前営業日対比横ばいの△0.063%からスタートし、その後は資金調達ニーズが旺盛となり、△0.039～△0.059%で推移した。週末4日積みとなる7日には大手行を中心に取り上がる動きが一層強くなり、同加重平均金利は△0.021%（速報）まで上昇した。ターム物は9月積み期内の1～2W物を中心に△0.070%～△0.045%のレンジで取引された。

来週の主な予定として、国内では11日に貿易収支（8月）の発表、12日にコア機械受注（8月）、14日にマネーストックの公表が挙げられる。海外では12日に米FOMC議事要旨、13日に米CPI（9月）、14日に米小売売上高（9月）の公表が挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.10%近辺から始まり、週央まで△0.130%～△0.110%で推移した。以降はレートが徐々に上昇し、短国3M、6Mの発行が重なった7日の取引では△0.07%台の出合いが見られた。SC取引は2年430～441回債、5年148～153回債、10年350～367回債、20年171～181回債、30年65～75回債、40年9～15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約9,700億円で、週間償還額（約2,800億円）を上回った。発行市場は、期明けの発行再開に伴い、鉄鋼や小売り等を中心に大型の発行が実施された。発行残高は先週末時点の23兆579億円から6日時点で25兆148億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、約4,700億円となっている。発行市場は、営業日数が少ないものの円安進行やインフレ圧力等が続くなか、事業法人の資金調達ニーズは底堅く、相応の発行が予想される。発行レートは横ばい圏内での出合いを予想する。12日にCP等買入オペが4,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

10月6日の6M1112回債の入札は、最高落札利回り△0.1591%（前回債△0.1568%）、平均落札利回り△0.1712%（前回債△0.1935%）3M1113回債の入札は、最高落札利回り△0.1598%（前回債△0.2061%）、平均落札利回り△0.1899%（前回債△0.2327%）となった。来週は10月14日に3M（1114回）の入札がある。